



尾張廻家巻

二之下

愛知県文化会館

505248

A911
1
2-2-2

尾張廻家巻二之下

新古今集

秋歌下

和歌所をよみし言を傳へし家隆朝臣

家隆朝臣

下りし山を夕しれぬればやむもぬのなむら

いりしあそびをいそいでさそひてはかたうらふも守りし

とよむ七味は家もあやゆ 糖はあけいそひてはかたうらふも守りし

つとめあそびあかぬをいそひてはかたうらふも守りし

しるしの山を夕しれぬればやむもぬのなむら

尾張乃家巻二之下

晴一の知れぬまゝとこのあはれ及ぶそのまはれ枝のゆゑを

二つづりかす芭蕉のうたをまねて作分りす 秋のゆゑいぞ

のふしふ事いふはらうんえす秋のゆゑいふはらうんえす

秋のあはれからうらまへとてまよふ心秋のあはれからうらまへとてまよふ心

題一守 西行

小山田の庵らうかす藤のまゝゆゑをうたはれてゆゑを

ねらうりきしてふれさしむとふれをうたはる月夜を

なりて藤とゆゑをうたへ筑紫守上公厚國の世に

へつやうかうり筑紫守上公厚國の世に ねらうりきしてふれさしむとふれをうたはる月夜を

攝政家百首并介一

慈念大信云

くまてかへりも神のさけりし橋原くまてかへりも神のさけりし橋原

杖風の橋原をささるあゆまに杖風の橋原をささるあゆまに

さか杖風のゆゑをうたへさか杖風のゆゑをうたへ

百首歌より附 寂蓮

めがふ袖よりあやかのひ色めがふ袖よりあやかのひ色

杖風のあはれえたふさ杖風のあはれえたふさ

ゆゑをうたへゆゑをうたへ

かへりて杖風のゆゑをうたへかへりて杖風のゆゑをうたへ

杖のあはれのゆゑ 太上天皇御製

ふた袖も南よりふた袖はをまきうす木林のくしをねね
 得たをくしのせきへくしきし用創神のなつてそそむかゝぬすしは
 くれし遊しそめをあきし林のくしはゆかしててそそむかゝぬすしは
 くのこころや
 ものそとそり

ゆきよりふた袖ゆきをぬきてふた袖は木林のくしをねね
 木のゆり後木のゆりの間と存ひ来てそりてそそむかゝぬすしは
 木のゆり後木のゆり後と存ひ来てそりてそそむかゝぬすしは

ゆきより木林
 木のゆり後
 木のゆり後

題一と

西行

きりくす木林のくしをねねふた袖は木林のくしをねね
 木のゆり後
 木のゆり後

ふた袖は木林のくしをねね
 木のゆり後
 木のゆり後

ちきんは朝日衣五十首歌

家隆朝信

虫の青なき木あわねをうす木林のくしをねね
 長き木あわねをうす木林のくしをねね
 木のゆり後
 木のゆり後

百首歌の中

武中内記

赤しなき庭のくしをねねふた袖は木林のくしをねね
 三白しなき庭のくしをねねふた袖は木林のくしをねね

い、里こそ似つらうし、庵の山をれ、山里、すもの甲、外山の、
 里、人さうり、あて、つ、石の、
 ち、の、山の底かゝり、おきこ、あ、い、ん、料、
 ち、い、て
 山の底かゝり、い、山、の、底、か、
 り、い、ん、料、
 ち、い、て
さ、あ、て、
 り、い、ん、料、
 ち、い、て

和歌所存全月長撰改

里あはれて月あやね、
 二百の考あいの、
 の、
 常の、
 して、

れたりけ、
 であれて、
 の、
 か、
 非、
 か、
 官、
 す、

とすけん家床のあらりよらるのいりわたると道なり
も尾よあのをちちやうよめてていやくこひて床と
お床とち
らうしお草まふも床小月敷のしつらうおのを
らうしふふんさいいけんらうふふんおのたいたいと
るも建物のあまふそ
のさといわゆるしきうそのまう床おのたいたいとたうし床のた
けえまこりたるこの水きせむらわててさそひんんよす
懋政大將よはる角月奇平首よませらるるに

寂蓮

人目しせのりきまもむむせあのかたはあら月か
れの盛ふ冬目とらんせのどかむむせ三つめのむせ
かまひかり
なまらうのまをるあのみすうに月のまをともあはる

うすう八田路のあせ
と縁して月のあらく

辛酉歌も時

村あのをまもいねほの感ふ身はらのかり村のたれ
村あねなるらあまはいしねす小又ま方のまのか
らうむらうらうらうむらうのほら

杖のし奇とて 太上天宮御歌

はひさうまも山杖の勤ケり身よりまむ杖の下高踏
けら物むもほめ下あのはいさう終をむらうらうら
一の拾入ほ物むも杖をまためてたきむらうらうらうらうら
標記して三のはたりとさきむらうらうらうらうら
かのらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
んこらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

通光御

入白はもやりの尾にやそいさば秋風よりつらき浪
トウはさか秋のなぐさなるの秋風をまわらふて
そくんとわらわによるんばりまげりわをいひて
下白はけなたるまきしりう入田中を秋のなぐさなり
打なはは秋風のよそなりやまはたりしりうまきしりう
恋のまきかかきては秋風をまわらふ三笠とよわらひるあぢや

題一らふ

伎本二女

わらわらふの秋風よりつらき浪のや風

床の山札のよを二そのまは山札よりありつらき浪の

十五番歌合

よふわらわらふ秋風をまわらふつらき浪のや風

よふわらわらふ秋のまきしりうの秋風をまわらふ

よふわらわらふ秋のまきしりうの秋風をまわらふ

よふわらわらふ秋のまきしりうの秋風をまわらふ

よふわらわらふ秋のまきしりうの秋風をまわらふ

よふわらわらふ秋のまきしりうの秋風をまわらふ

よふわらわらふ秋のまきしりうの秋風をまわらふ

よふわらわらふ秋のまきしりうの秋風をまわらふ

よふわらわらふ秋のまきしりうの秋風をまわらふ

よふわらわらふ秋のまきしりうの秋風をまわらふ

ふきのしらしめ
者あつちをり

十音番歌合 春言信人らに

わんわん長月の夜の本宿をさゆらんわんわんおやどん

あゝのあゝおやどんしん床りやいの
とゆつれておやどんしんおやどん

あゝあゝとてお首歌つらんわんわん村林の歌

恋か大傷心

林をさゆらんわんわんおやどんわんわんおやどん

ほろほろをさゆらんわんわんおやどんわんわん

暮妹

長月いふあゝわんわんわんわんおやどんわんわん

いふあゝわんわんわんわん

物袋のしんわんわんわんわんわんわんわんわん
長月のあゝをさゆらんわんわんわんわん

根政大將心付御玉を并りてはるらん

兼連

鶴の雪のさゆらんわんわんわんわんおやどんわんわん

鶴の雪のさゆらんわんわんわんわんおやどんわんわん

いふあゝをさゆらんわんわんわんわんおやどんわんわん

あゝあゝをさゆらんわんわんわんわんおやどんわんわん

わんわんわんわんおやどんわんわんわんわんおやどん

わんわんわんわんおやどんわんわんわんわんおやどん

わんわんわんわんおやどんわんわんわんわんおやどん

あつらひしき之はれぬがはしきものたふあゆえさう人
けりしつらさるるあつらひしきものたふあゆえさう人
とのまてはいふまじき何のゆへか
いふまじき月夜歌集のたふあゆえさう人
けりしつらさるるあつらひしきものたふあゆえさう人
けりしつらさるるあつらひしきものたふあゆえさう人
けりしつらさるるあつらひしきものたふあゆえさう人
けりしつらさるるあつらひしきものたふあゆえさう人

秋舟 八條院高倉

神のいしむるはげしくも山はしむるは

と神のいしむるはげしくも山はしむるは
と神のいしむるはげしくも山はしむるは

秋舟 八條院高倉

と神のいしむるはげしくも山はしむるは

と神のいしむるはげしくも山はしむるは
と神のいしむるはげしくも山はしむるは

と神のいしむるはげしくも山はしむるは
と神のいしむるはげしくも山はしむるは
と神のいしむるはげしくも山はしむるは
と神のいしむるはげしくも山はしむるは
と神のいしむるはげしくも山はしむるは

入道志園白大鼓生石の音

後成

と神のいしむるはげしくも山はしむるは

と神のいしむるはげしくも山はしむるは
と神のいしむるはげしくも山はしむるは

百首歌集 時 宮内

と神のいしむるはげしくも山はしむるは

と神のいしむるはげしくも山はしむるは
と神のいしむるはげしくも山はしむるは

たるとゆらゆらとくすくすはなきて入らるるきまをこゝろあはれし
とんととみぬのちるすたはるなまきりりうきたれし川とてなる舟りあふ
中絶ちてし下り舟がふらふ船中やたよなえとあれはれ舟の
しよ中絶ちてしあふたなみのせうりうりやまふななふもあまふ事

大將侍 針家の巨首歌合拵

撰改

作京一つとまきうらん杜の下も杖少くもた

物の下もかきとまきうらん杜の下も杖少くもた
しけるかきとまきうらん杜の下も杖少くもた
かきとまきうらん杜の下も杖少くもた

定家物語

付らぬ波さくさよらと川作の杜あし改し

付らぬ波さくさよらと川作の杜あし改し
付らぬ波さくさよらと川作の杜あし改し

入長あし波のさくさよらと川作の杜あし改し
川作の杜あし改し
付らぬ波さくさよらと川作の杜あし改し

作の杜あし改し

巨首歌合 針家の歌

武子内親王

洞の深しやまかきとまきうらん杜の下も杖少くもた

洞の深しやまかきとまきうらん杜の下も杖少くもた
洞の深しやまかきとまきうらん杜の下も杖少くもた

洞の深しやまかきとまきうらん杜の下も杖少くもた
洞の深しやまかきとまきうらん杜の下も杖少くもた

洞の深しやまかきとまきうらん杜の下も杖少くもた
洞の深しやまかきとまきうらん杜の下も杖少くもた

洞の深しやまかきとまきうらん杜の下も杖少くもた
洞の深しやまかきとまきうらん杜の下も杖少くもた

まのまゝ
三つ

もも盛んほしをあらしほしほふちけしりぬる

上りてあり山のや。
しりたよほのまゝ

家の冒首の歌合の 概改

玉田外いふのほの林のまゝしりてしりての神代

玉田外にむへくはり。まのまゝ林のまゝ林のまゝ

西のまゝ人たれはしりて人の林のまゝしりてしりて

玉田外の時をたせはるるまのまゝの神代時をたせはるる

あしすしりてしりてしりてしりてしりてしりて

時をたせはるるまのまゝしりてしりてしりて

千五百番歌合 檀中納言兼宗

お様の形見をまきり女衆しほりし時をたせはるる

お様の形見をまきりまのまゝしりてしりてしりて
時をたせはるるまのまゝしりてしりて

卒首哥りませはるる時覺は親王

身まてはるる林のまゝしりてしりてしりて

二分ほりしりて下り林のまゝしりてしりて

ゆきまゝ

同九月号 前太政大臣

まのまゝのまゝしりてしりてしりてしりて

まのまゝのまゝしりてしりてしりてしりて
上下のまのまゝしりてしりてしりて

冬歌

千五富歌合巻物冬後成に

昔あ守林の列は神のおおともしを冬や暮れん
九月冬の夜林を〜と昔あ守神の後の夜

かりわらげや冬の暮のやと〜
（注）

春日社歌合巻物冬後成に

巻物冬後成

昔あ守林の列は神のおおともしを冬や暮れん
神のまゝの例の夜〜

昔あ守林の列は神のおおともしを冬や暮れん

通具

昔あ守林の列は神のおおともしを冬や暮れん

昔あ守林の列は神のおおともしを冬や暮れん

昔あ守林の列は神のおおともしを冬や暮れん

昔あ守林の列は神のおおともしを冬や暮れん

昔あ守林の列は神のおおともしを冬や暮れん

昔あ守林の列は神のおおともしを冬や暮れん

雅經

昔あ守林の列は神のおおともしを冬や暮れん

山里の風子伝 とき多き子 染れしてぬをさへりて

なしめを介きしんていし
かひもさしてありきしんていし

況部成茂

冬の山よりあふすあきなり 須く川より流す流き

あふすあきなり 須く川より流す流き

あふすあきなり 須く川より流す流き

あふすあきなり 須く川より流す流き

あふすあきなり 須く川より流す流き

あふすあきなり 須く川より流す流き

あふすあきなり 須く川より流す流き

ぬをさへりてぬをさへりて

ぬをさへりてぬをさへりて

ぬをさへりてぬをさへりて

ぬをさへりてぬをさへりて

ぬをさへりてぬをさへりて

ぬをさへりてぬをさへりて

早春歌事附 宮内

う綿杖のたこや五田山ちぬ杖ありぬく

たこや五田山ちぬ杖ありぬく

たこや五田山ちぬ杖ありぬく

いづれ教までしなむねをら。なぐりぬぬ八倍もおぼせも。
お祭りのやうに教たれしは
 りれせずして縁なれしある。これ初冬の度多ふ。そのまへは
 いまも教までしなむねといひては初冬のやうな者。
 りるまへもいづれぬお祭の枝。嵐のゆく杖のこも
 と縁たれしとて。作しよらつりやとて。なすこ杖のこも
 りりやまやう縁たるも。らの枝をわりのやとて。
 清しいとて。五回といひて。お祭なるともまきせり。

題一と 西行

月をまのしほのやとけしは。あちあち冬物しは。哉
 四百んあちあち。いづれを上のやわらき。なすあちあちといひ
 空にあちあち。いづれんあちあち。なすあちあちといひ。
いづれを上のやわらき。なすあちあちといひ。なすあちあちといひ。
 よちあちあち。いづれのやとけしは。あちあち。月をまのしほのやとけしは。
 雪うそれたいひて。月をまのしほのやとけしは。あちあち。月をまのしほのやとけしは。

あちあち。いづれを上のやわらき。なすあちあちといひ。
いづれを上のやわらき。なすあちあちといひ。
 十月上旬をわら。いづれを上のやわらき。なすあちあちといひ。
 月の末のやとけしは。あちあち。月をまのしほのやとけしは。
 やうや。いづれを上のやわらき。なすあちあちといひ。
いづれを上のやわらき。なすあちあちといひ。
 山家時雨 左原隆信朝臣
 雪をまのしほのやとけしは。あちあち。月をまのしほのやとけしは。
いづれを上のやわらき。なすあちあちといひ。

時雨 慈田大僧云

やうや。いづれを上のやわらき。なすあちあちといひ。
 けしは。あちあち。月をまのしほのやとけしは。

こゝろを八、佐とてみかみかもしふまにそのまを神のから
まきかみかみりしてしてをらまかみまきとてなり

攝政家歌合上湖上冬月

家隆朝臣

一うは雨やきこわり波らわらあてつる右の月

はまらるまふまきさやとちんまきさやとちんさふらりて

遠きわの波るす月まきさやとちんさめてつるまのまのはの

舟是は歌を五十首可也

俊成

ひらら池の水すし月のすて神まじりりぬる哉

神神のあまつるまの月影けせとて神のあまひらら池より神

つるまをまててわげはははれし池はらつるまの池の

事事のあぬれはははははとて上よりつり月の池をありて神まじりり

ははららつるまの池をありて神まじりりあはら

いしはららつるまの池をありて神まじりりあはら

つるまの池をありて神まじりりあはら

つるまの池をありて神まじりりあはら

つるまの池をありて神まじりりあはら

つるまの池をありて神まじりりあはら

つるまの池をありて神まじりりあはら

類一らあ

後徳大寺をたむ

夕夕もきふしむらゆかき波るよわきふらこ一かた尾まきんぬ
けいりつにちりて上はせしむるやうなる歌毎句の初をなすは格
 兼ふは歌の初りと上はせしむるやうなる歌毎句の初をなすは格

五十首歌の何撰改

月をすしけしんるまきの風や吹あなはをひらりなくと
 初めぞりしむらゆかき波るよわきふらこ一かた尾まきんぬ
けいりつにちりて上はせしむるやうなる歌毎句の初をなすは格
 兼ふは歌の初りと上はせしむるやうなる歌毎句の初をなすは格

わらゆかき波るよわきふらこ一かた尾まきんぬ
けいりつにちりて上はせしむるやうなる歌毎句の初をなすは格
 兼ふは歌の初りと上はせしむるやうなる歌毎句の初をなすは格

十音番歌の香江

はらゆかき波るよわきふらこ一かた尾まきんぬ
けいりつにちりて上はせしむるやうなる歌毎句の初をなすは格
 兼ふは歌の初りと上はせしむるやうなる歌毎句の初をなすは格

最勝四天王院障子の海浦まきんぬ

秀敏

風をすしけしんるまきの風や吹あなはをひらりなくと
 初めぞりしむらゆかき波るよわきふらこ一かた尾まきんぬ

暮らして春を待て
しらよとまき歌なり。

志田大信

庭の雪よあわてつけはつるをよもいふをいふ

ト白く今もなれても人のつら
あそきて今もなれても人のつら

泳ぐも山のはる雪心一まのふもあはれを

三白たいそのがれをのせか
とりかばうくあある事なり。

春のあはれにふりて寂然

再もてらるけしうるふわしいとつれ庭の雪

上りかふして柳のききか
下りかふして柳のききか

巨首のくしよ

太上天皇御歌

一のふらたたるおぼし夜より三つなまきえたねの雪

花かたりのうりよまなまきよねのちまき
は三つなまきえたねの雪

千幸番歌合 通具

春木しやもるたるおしんた春ま川梅のたのめを

中より春木しやもるたるおしんた
よはらもるたるおしんた

春ま川梅のたのめを
春ま川梅のたのめを

春ま川梅のたのめを
春ま川梅のたのめを

春ま川梅のたのめを
春ま川梅のたのめを

結りて交野のよはれあはてはの川梅の月を

上りかふして柳のききか
下りかふして柳のききか

百首歌の付 式子内勅令

日数あらきまもあも炭の信はくべー大系村里
 物二るんぞの足敷してせん美きまもあも炭の
 多くやなれんふとぞと獨の—まきまもあも炭の
 事よまもあも炭の—まきまもあも炭の

軍の當り入らうりなる西行

ゆのつしむわなとふ人やおもひやそふおん軍の當り
 ゆのつしむわなとふ人やおもひやそふおん軍の當り
 ゆのつしむわなとふ人やおもひやそふおん軍の當り
 ゆのつしむわなとふ人やおもひやそふおん軍の當り
 ゆのつしむわなとふ人やおもひやそふおん軍の當り

おん軍の當り入らうりなる西行

おん軍の當り入らうりなる西行

おん軍の當り入らうりなる西行

後成り

おん軍の當り入らうりなる西行

おん軍の當り入らうりなる西行

おん軍の當り入らうりなる西行

おん軍の當り入らうりなる西行

おん軍の當り入らうりなる西行

百首歌の付 小侍従

やれやれ十の年の暮をいふもめかゆさつあふ

浪しそなちのゆさうまめかれは十とまうの
子あさひはともりよりまきめをせいかれん

題一らあ

西行

昔も心庭ふさきあをつらむえみしほれ年の暮

こ年の暮ふさきあをつらむえみしほれ年の暮

れをさし本はあらほほ水のたをとりてし事しはら

留木にいし奇れきしめんの字のわんしほれ年の暮

者かふたは山雲山のは華會助のまをさめりしほれ年の暮

さなはさくはほ水ありてみれりる巻木もろりしほれ年の暮

死ありて海のはか目ありてりやちのまきほれたてほ木はさ

えりてはれしほれまかちとれたりはてのしほれ年の暮

日にはたはためはの値つまき教あまをほ木の海の目せえらた

よへは敷してはの上のほははほえりしほれ年の暮

木をついにほはは業の功芳をついでかびりしほれ年の暮

木をついにほはは業の功芳をついでかびりしほれ年の暮

先年へかふし事木はたたくつこりしほれ年の暮

昔も心庭ふさきあをつらむえみしほれ年の暮

昔も心庭ふさきあをつらむえみしほれ年の暮

昔も心庭ふさきあをつらむえみしほれ年の暮

昔も心庭ふさきあをつらむえみしほれ年の暮

昔も心庭ふさきあをつらむえみしほれ年の暮

昔も心庭ふさきあをつらむえみしほれ年の暮

昔も心庭ふさきあをつらむえみしほれ年の暮

昔も心庭ふさきあをつらむえみしほれ年の暮

ほむすもしいいへまふふきそこのまふ年あきてはあまのさうえ
てさうらひのひめかきくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

百首歌中 入道左大臣

いそね年のをれを衣たれししとまはまきり昔のハ
きて東暮の歌いそともしもふた年の娘のまう
をいそふし事ぬしのけしとふん殿そまふ入内かやうのしあつてまきんは
とてくかしとほいとまきといふ娘の隙へんたれを用ふ
てんかひひいてはの
昔をとりまうりし侍りしとんくは語之
いそね入道のまをな祭の娘のまうを誓ひて
ふれあきこと二首のまへにしも原原の衣て何れまふとみぬ
一年のまふをなけるぬえりくまのまふの家まふ家余の親
本とてまふくはつてまを
まふくはつてふれあき

入道左大臣百首歌中 東暮

後徳寺まま

石ころ物類の川のなまむらやむのなむらやむ

上のなむ歌のなむらやむが代普通兼白の舟よかしたきを花す
といふは歌のなむらやむはむらやむのなむらやむのなむらやむ
てなむらやむのなむらやむのなむらやむのなむらやむ
物ゆゑあせて石をなむらやむのなむらやむのなむらやむ
俗言を被りしは後徳寺の如し
千載集のほむらふ事かあり

土師内大臣家と海邊と東暮

有家朝臣

いそねをいそね誓のやれ長うはねて袖ふかまやうらん
これと誓のまき暮のまをまかひひらきこむらわらふ
衣の縁とてまふはねらぬらふまをいそねとてまふ

愛 知 県



1105052480

911

1

2-2-2